

わが校のストップ！いじめ アクションプラン ～いじめの未然防止、早期発見、早期対応～

生徒一人一人が自分の居場所だと思える学校 いじめをさせない見逃さない学校

～ 家庭・地域・学校で自分も他者も大切に思う人を育てる ～

生徒のアクション

自分たちでより良い学校づくりを進める

◇気持ちのよい挨拶をする・ルールを守る

○自分も他人も大切に思う

- ・相手を傷つけない正しい言葉づかいや振る舞いを心がける。

○できることを考えて行動にうつす

- ・クラスで重点アクションを考え実行する。
- ・生徒会役員を中心に挨拶運動、いじめ根絶運動を実施。委員会活動において人権意識を高める啓発ポスター制作。
- ・身近な大人に相談する。

○さまざまな人と交流する

- ・販売会、同窓会・スクールサポーターとの交流
ふれあい美化活動、近隣施設へプランター贈呈
→ 頼れる大人・地域とのつながりを築く

家庭や地域と連携したアクション

◇地域で子供を育てる意識の高揚

【保護者等のアクション】

- ・子どもの基本的な生活習慣の確立に努める。
- ・子どもから困っていることや失敗してしまったことを発信できる力を育てる。
- ・学校との信頼関係を構築する。
- ・PTA活動等へ参加し他の保護者等と親睦を深め気軽に相談、協力できる関係を構築する。

【地域のアクション】

- ・販売会、愛荘町の自治体との地域交流、スクールサポーター事業、ふれあい美化活動、プランター贈呈等での本校生徒との地元住民との交流。
- ・就労体験や企業訪問を通じて本校生徒との交流。
→ 地域の方から子どもへのあたたかい言葉がけ近過ぎない距離の頼れる大人の存在づくり

学校(教職員)のアクション

本校は通学や日常生活が自分でできる知的障がいの生徒を対象とした特別支援学校である。生徒たちの多くは家族や教職員といった身近な大人との関わりが中心の世界から同年代の仲間集団での生活経験を通して社会性や余暇の過ごし方などを身に着けていく過程にいる。集団での育ちの中で、客観的に物事を見ようとする力や相手の立場になって考えようとする力、自分たちで物事を解決しようとする力を獲得していく段階でもある。また、併せ持つ障がいの特性から、一時の感情に任せた衝動的な行動をしたり、相手の気持ちや感情の理解が困難であったり、言葉の理解が困難であったりすることから、人との関わりに苦手意識や困難さを抱えている生徒もいる。

教職員は生徒の実態と課題を把握した上で、生徒たちの心理的な安定や仲間との人間関係の構築に向けて適切な支援を行い「先生に相談すれば力になってもらえる」という信頼を確立していく。また、「自分が好き」「仲間が大切」「学校が楽しい」といった思いを持つことができる学校作りを進めていく。

【未然防止】一人ひとりの生徒が大切にされ、安心して過ごすことができる学校作り

- ・気持ちよい挨拶が飛び交う学校に。通学時の交通立ち番をはじめ、様々な教職員が生徒へ言葉がけをする。
- ・安心して過ごすことができる居心地の良い環境作り。きめ細かい清掃、清潔指導を行う。
- ・人権意識を高め、自己理解・他者理解を進める授業と生徒指導、進路指導を展開する。
- ・研修会等を実施し、いじめは絶対に許さないという共通認識を持ち全教職員がブレのない姿勢で指導する。
- ・スマートフォン、SNSの適切な使い方を教職員も学び指導する。
- ・保護者、PTAとの連携を密にし、学校や家庭での生徒の様子や変化を共有、協力要請を迅速に行う。
- ・PTA事業を通じてプランの説明と協力の呼びかけ。保護者と連携した企業開拓 → 地域とつながる。
- ・＜地域共学＞学校内だけでなく、地域とのつながりを密にして交流を進める。
- ・日頃から各関係機関と連携し、多方面から生徒を支援する。

【早期発見と早期対応、継続的な事後対応】

- ・少人数制・チームティーチング制による、よく目の届く授業を展開し生徒の様子の変化を察知する。
- ・生徒の生活面に關わる事項を含むいじめに関するアンケートの実施。(年間3回以上)
- ・必要に応じてスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等の専門家から助言を受け対応する。

【いじめ発生時の対応】

いじめの疑いがある場合は学校長の指揮のもと、対策委員会を中心に直ちに事実確認を行い、被害生徒が安心して過ごすことができるよう支援する。加害生徒、周囲の生徒への支援・指導を行う。同時に保護者に事実を説明し今後の支援・指導について同意を得た上で連携し、心のケアと再発防止に向けて継続した支援を行う。